

第17号
(平成29年7月)



あいいく

～愛を育み 地域と
ともに子育て支援～

発行者
社会福祉法人
半田同胞園
理事長
北村 正信

<住所> 〒475-0846 愛知県半田市栄町2丁目22番地

HP <http://dohoen.jp/>

本部・母子生活支援施設 Tel. 0569-21-0645 Fax 0569-31-0645
保育所 Tel. 0569-24-6645 Fax 0569-24-6654



◎ 「平成28年度を振り返って」 理事長 北村 正信



日頃は社会福祉法人半田同胞園にご厚意と変わらぬご支援を賜り心より感謝申し上げます。

昨年5月に何も解らないまま理事長を承り、先ずは自分の出来ることを一つ一つ精一杯取り組むこととしたこの一年は、多くの方に助けられながらあつという間に過ぎてしまいました。本当にありがとうございます。まだまだ至らぬところばかりですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、法人としては、社会福祉法人制度の改革の中、理事会、評議員会といった新法人組織も多くの関係者のご協力により整い、いよいよスタートしました。この改革では、地域におけるより公益的な取組、運営の透明性、財務規律の強化、経営組織の意思決定の正当性等が求められています。これは正に半田同胞園が使命としている「地域と共に子育て支援」を行っていく上で当然求められるべきことです。新法人組織のもと、なお一層、法人理念の実践をめざしてまいります。

また、近年の保育に対するニーズに 대응するためには、半田同胞園の特色を活かしながらも、これからの将来を見据えた半田同胞園のあり方を改めて考えていく必要を感じています。関係各位の皆様には益々のご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

◎ 当法人理事の紹介及び一言 「平成29年度に備えて」 理事 水野 源次



社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなか、社会福祉法の改正に

もない当法人も評議員制度を平成29年度から導入いたします。それは福祉ニーズの多様化であり、従前に比べ、より多様に地域ニーズを捉え、それに応えていくことであります。

今までは、理事会が予算、事業、行事等を決め、理事長を中心に事業運営を行い、理事会でその結果等の判断を行ってききました。それは、内輪で決め、内輪でその結果のよし悪しを決めるという自己満足型の運営結果の総括でありましたが、今後は、評議員会が物事を決め、理事会は、理事長を中心に評議員会で決められた事項を円滑、効率的に運営を行い、地域や利用者ニーズに添っていくこととなります。なお、その結果の判定も評議員の皆さんに行なうていただく、その初年度となる平成29年度に備えて学習を重ね、従前に増して利用者皆さんや地域の皆さんの要請に添えられるよう努力を行ってまいりました。今後は、今まで以上に施設に顔を出し、利用者そして職員皆さんの声を多く聴き、法人の運営になお一層の努力をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

「乳児期の今を大切に」 理事 宍戸 洋子



人生八十年、九十年の高齢化社会を迎えましたが。この長い人生の中で乳幼児期は、ほんのわずか

です。そして、この短い数年が、人格形成の土台となるとても大切な時期です。乳幼児は、泣きわめき、いつときもじつとしていない、じつに手間のかかる時期なのです。どの親も時には頭にきてキレてしまう時があります。そんな時、子どもを外に連れ出しましょう。戸外には花が咲き、鳥がさえずり、風がそよいでいます。いつの間にか、あのカッカとしていた心がホックリしてきます。自然は、人間の心をとくほぐしてくる不思議な力をもっています。子どもも広々とした戸外で解放され、のびのびと駆けまわり、心身共にたくましく成長していきます。すねて甘えて「だっこして」と言ってくるのも乳幼児期だけです。子どもは、たえず自分が愛されているか親をためしているのです。そんな時、しっかりと抱きしめてあげましょう。そして、子どもをひざに乗せ、絵本を読んであげましょう。あたたかい親のぬくもりと声が、子どもの心に届き、かけがえのない一生の宝物になります。

さあ、この短い乳幼児期の今を大切に、子育てを楽しみましょう。



半田同胞園保育所(保育所)

職員

261名
所長1名・保育士34名
延長保育士23名・調理員5名
看護師1名・事務員1名
※平成29年4月1日現在



保育所長 青木 誠

◎「平成28年度「重点努力目標」の取組結果と「第三者評価」について」

平成28年度の保育所の運営にあたっては、①5点の重点努力目標のさるなる実践と、②外部評価機関による「第三者評価」を実施することとした。第三者評価の実施は、これまで実施してきた「半田同胞園保育所評価」とは違って外部評価者による客観的な評価をしてもらうことができるので、評価結果を今後の保育所運営に活かしていくことが期待される。以下、①②の取組状況と結果について述べる。

平成28年度「重点努力目標」の取組結果

○保護者の協力のもと「早起き・早寝・朝ごはん」の生活リズムを整えていく。
・生活チェック表の項目「起床時刻、就寝時刻、朝ごはん」の欄を確認して問題点を保護者に伝えてきたが、数年来の取組でマンネリ化が指摘された。また、保護者から調査項目に不明瞭な点があるとの指摘を受けたこ

とから、実施内容や方法を再検討することとした。

・年度途中に、数名の保育士によるプロジェクトチームを作つて検討を進め、「キラキラ週間」と題して次年度から実施することになった。
○「柳沢運動プログラム」「さくらさくらんぼリズム」を各年齢の発達段階に合わせて遊びの中に取り入れ、運動能力の発達をうながす。

・0歳児から5歳児まで系統的に保育の中に取り入れて実践を継続している。
・大府市の公立保育園から「さくらんぼリズム」の視察の申し入れがあり、0歳から5歳までの園児が日ごろの成果を発表し好評を得た。

○子どもからも保護者からも信頼される保育士になる。
・前年度の保育所評価では93%の保護者から「保育所の職員の対応や雰囲気はよい」との評価を得た。
・保護者による自由記述欄から、「保育士の名前がわからないので名札を着用してほしい。」との要望があったのですぐに対応した。

○園内・園外研修に積極的に参加し、保育の質の向上を図る。
・市内で実施される研究会や研修会に可能な限り参加させた。
・愛知県現任保育士研修会へは参加は継続している。
・県外研修へすすんで参加することで自身の力量向上をねらって実施している。昨年度は12名を派遣した。

○元気よくあいさつのできる子どもの育成を図る。
・あいさつ溢れる保育所をめざして、まず職員から率先して実践することが重要であると考えて子ども、保護者、来客等への積極的なあいさつをするように心がけている。

☆防災教育のさらなる充実
・定期的に実施してきた各種避難訓練(地震・火災・不審者対応)の訓練内容を再検討し、現役消防士の直接指導を受けて、より現実的な避難訓練を実施した。

「第三者評価」の実施
・第三者評価機関「中部評価センター」による訪問調査の結果を真摯に受けとめ、今後の保育所運営の参考にしていく。調査結果については、HPにて公開していく。

【評価の高かった点】
◇園からの情報発信が多くされており、園だより、園長だより、クラスだより、給食だより等、即時性に富んでいる。
◇スポーツ分野を中心とした第一線で活躍する専門家を招いて「本物から学ぶ」取組をしている。

◎平成29年度新管理職紹介

「主任主査として」

主任主査 石川正栄

現代は多様な価値観が混在し、保護者との関係にも様々な課題があります。様々な人との共生を求め、子どもの最善の利益に配慮した保育と子育て支



援の実現が保育所に求められています。保育所とは、子どもは遊びを通して、保護者は子育てを通して、職員は仕事を通して学ぶところ。主任主査として職員が直面している問題や挑戦しようとしている課題を把握し、職員の力量や課題の内容を踏まえ、適切な研修や手段を提供し、助言を行っていきます。そして、研修や自己研鑽による職員の専門性向上及び保育の質の向上を図り、職員が意欲や喜びをもって働ける同胞園が「日本一の保育所」を目標に精一杯努めていきます。

「主査として」

主査 平原麻奈美



今年度から主査となり、今まで以上に園のために何ができるか考え、気持ちも新たに頑張ろうと思えます。また、子どもたちや保育士にとつて私にできることは何かをよく考えて行動したいと思えます。できるだけ保育士と話し、一緒に最善の方法を考え、子どもにとつて保育士にとつて楽しく、安全な保育が進められるお手伝いができたらと思います。

私の武器である体力と根性で、今自分にできること、もっている力を十分に發揮できるように毎日笑顔で元気よく過ごしていきます。



「主査として」



主査 近藤千里

園庭にチューリップを見つけた。さいた、さいた。と歌い出した子がいました。花壇の土を掘り起こしている年長児のバケツをのぞくと「幼虫見つけたよ。」と教えてくれました。

同胞園は街中の保育所ですが、よく見ると身近な自然にあふれています。そんな小さな自然に触れ、実体験を通して子どもたちが伸び伸び成長し、そしてそれを応援するたくさん職員がいる。それが私の理想とする保育所です。子どもや職員と一緒に様々な体験を通して私自身も成長していきたいです。

◎ 日々の保育の様子

「セントレア見学」

保育士 久村優子

巣立ち式まであと一か月となった3月の初め、年長児58名は待ちに待ったセントレア空港へ出かけました。太田川での乗り換えも難なくこなし、セントレアに到着。空港内では、1グループに一人の保育士で自由行動としました。スカイデッキに出ると大きな音を立てて飛び立つ飛行機を「まてー！」と叫びながら追いかけて大興奮で



した。他にも「ここは何だろう?」といういろいろなことに興味をもって見学を楽しみました。また、この日は空港内の駄菓子屋さんで自分で財布からお金を出しておやつを買いました。真剣に悩みながらおやつを選ぶ子どもたち。とてもよい経験になりました。

「乳児運動会」

保育士 早川千尋

9月末に行われた乳児運動会では、0歳児、1歳児、2歳児クラスの子どもたちが可愛らしい競技を見せてくれました。体操をして体をほぐした後、まずはかけっこから始まり、その後学年ごとの親子競技を行います。それぞれの年齢に合ったサーキットや遊戯を楽しんでいた子どもたち。私が担任していた1歳児クラスでは、おさるの耳としっぽをつけて「子ぎる」に変身し、段ボールで作った親ぎるの口に新聞紙で作った果物を入れるという競技を行いました。可愛い子ぎるたちが一生懸命果物を運ぶ姿はとても微笑ましいものでした。0歳、1歳、2歳と通して競技を行うことで、子どもたちの成長を保護者の方を感じていただくように思い、よい運動会になりました。



「お泊まり保育」

保育士 滝本麻紀

園生活の中で、年長クラスしか経験で

きない「お泊まり保育」というイベント。毎年、テーマがあるのですが、今回は「小さな社会」というテーマでした。子どもたちは、お泊まり保育までにTシャツ、財布、カバン作りなどをして、「えんちよう」と呼ばれる同胞園のみで使えるお金を集め、お泊まり保育当日に自分で手に入れた「えんちよう」を使ってごはんを食べたり、縁日「ごっこ」したりして過ごしました。小さい頃から憧れていたお泊まり保育ですが、お家の方と離れる際、やはり不安になってしまいう子の姿も見られました。しかし、仲間に励まされたり、お仕事を頑張ったりするうちに不安もなくなり、あつという間に朝がきました。行事を通して子どもたちは大きく成長しました。



「せんせい、またやりたい!」

保育士 澤田倫子

音遊会で「11ぴきのねこ」ふくろのなか」というお話に取り組みました。登場人物はねこ怪物のみ。それを27人でどうやって劇にするのか難しさもありましたが、子どもたちなりに考え、いろんなアイデアを出してくれました。練習が始まり、少しずつお話が子どものものになっていき、イメージの世界が定着してくると、劇「ごっこ」以外のときもセリフが出てくるようになりました。盛り上がりつつある姿を見て嬉しかったです。そして本番が近づいてくると、クラスの結びつ

きも生まれ、友だちと演じる喜びや友だちと一緒に声を出す楽しさを味わい、徐々に自信もついてきました。当日はたくさんのお客さんを前に緊張しながらも、元気よく楽しくできました。また一つクラスの思い出ができました。



「おすもうさんと遊ぼう」

保育士 伴 優紀実

保育所におすもうさんがやってきました。それは子どもが楽しみにしている行事の一つでもあるおすもうさんとの交流会です。

ホールで待つ子どもたちの前に3人の力士が登場すると、目を輝かせて歓声をあげ、大きな拍手で迎えます。最初は、力士を見本にして四股や股割りなどを体験。子どもたちの中には、平気で股割ができる子もいるので本場に驚きました。そして、乳児から順に力士との対戦が始まり、大きな体の力士を前に泣き出す子や果敢に向かっていく子など、様々な姿を見せてくれました。0歳児は優しく抱っこしてもらいました。不思議そうな表情でした。この貴重な体験を通して、おすもうさんのよ



うに強く、優しく育っていくことを願っています。

◎ 大空会(保護者会)の活動の様子

「一年間を振り返って」

平成28年度会長 近藤勝美



半田同胞園保育所で我が子がお世話になり、5年が経とうとする平成28年の5月に大空会会長というお

役目を拝命するまで、ほとんどと言ってよいほど、大空会の活動に参加することのなかった私が、会長という職務を全うすることができののかすごく不安だったことを今でも覚えております。ですが、実行部役員をはじめクラス役員の皆様のおかげで無事に終えることができ、まずは深く感謝申し上げます。大空会の目的である子どもたちの健全育成や同胞園の下支え、会員同士の親睦を図る活動はもちろんですが、私の中で一つのテーマを掲げて活動しておりました。それは「共有」であります。目的のために活動することは当然のことですが、その活動を通じて子どもたちの成長、そして我々親世代も人として、大人として成長する機会であってほしいと思っております。大空会活動にご参加いただいた方々は、間違いなく参加する前より経験値が上がったことで子どもも大人も成長したと言えるのではないのでしょうか。今後も大空会の活動を通じて一人でも多くの方が成長できること、そして

半田同胞園とともに大空会が益々繁栄することを祈念申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。一年間、ありがとうございました。

大空会様からのご寄付の紹介

平成28年度大空会様より、園児のために保育材料をたくさん購入して頂きました。

ありがとうございます
ありがとうございました。



◎ 半田同胞園保育所内での特別保育事業実績

- ・ 延長保育事業 月平均2,192人 (日平均 早朝34人、延長90人)
- ・ 一時保育事業 年間延1,535人
- ・ 病後児保育事業 年間20人
- ・ (本法人の病後児保育事業は平成29年3月31日をもって終了しました)
- ・ 園庭開放(毎週月曜日) 121組270人
- ・ 子育てサロン(毎月2・3・4の月曜日)に地区の民生・児童委員さんのボランティアによるびよんびよん村、ふれあい広場(同胞園ホール) 106組229人

子育て支援事業(半田市委託)

〈半田市民交流センターでの実施〉

平成18年度から、子育て支援センター内で、乳幼児一時預かり事業及び親子で遊ぶプレイランドの実施。11年目の委託。

◎ 子育て支援事業

平成28年度

より絵本の貸し出しが始まりました。子どもの興味がある絵本を遊びに来たときに借りることができると、親子で話しながらたくさん借りてくれます。へらんらんラン子やへみんなどで遊ぶうではランチョンマットや色々な制作を見本の真似をするだけでなく、お母さん同士交流しながら様々な発想で作品を作り、喜んで帰ってきています。今後も交流する場を提供していきます。



◎ 幼児一時預かり

初めてプレイランドに来た方に一時預かりの説明をすると、「どんな理由でもよいところがいいですね。」との言葉をいただけます。その気軽さがよいようで、母の美容院・習い事など短時間の利用の方もみえます。時間の長い短いに関わらず、個々に寄り添った保育を心がけているため、利用者の方から「安心して預けられます。」と言っていただけあります。今後も保護者に安心してもらえるように、子どもに楽しんでもらえるような場にしていききたいと思います。

◎ 子育て支援事業及び乳幼児一時預かり事業の実績状況

- ・ プレイランド利用者数
- ・ レットトライ1・2・3利用者数
- ・ リズムで遊ぶう利用者数
- ・ みんなで遊ぶう利用者数
- ・ 相談件数
- ・ 乳幼児一時預かり利用者数

区分(単位)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレイランド利用者数(人)	3,380	3,460	4,256	4,748	4,762	4,652	4,014	3,502	3,136	3,092	3,710	4,527	47,239
レットトライ1・2・3参加者数(組/人)	40 94	39 85	37 81	41 86	41 95	39 84	43 92	43 92	44 95	46 99	34 73	47 104	494 1,080
リズムで遊ぶう参加者数(組/人)	26 55	39 78	37 77	45 96	45 105	52 113	43 95	49 102	39 85	29 61	40 84	43 87	487 1,038
みんな遊ぶう参加者数(組/人)	19 41	37 75	36 76	67 146	91 195	35 73	56 114	33 69	82 168	26 58	61 140	27 67	570 1,222
相談件数(件)	21	44	29	42	23	35	19	26	24	20	28	24	335
幼児一時預かり利用者数(人)	174 22	122 16	106 11	143 10	137 9	139 9	154 8	169 16	169 11	149 11	151 22	231 18	1,844 163
(うち0歳)													
(うち小学生)	3	0	0	0	3	0	3	1	0	0	1	1	12

半田同胞園(母子生活支援施設)

【定員】 20世帯(サテライト5世帯)

【職員】 施設長1名、主査(被虐待児個別対応職員)1名、母子支援員2名、サテライト母子支援員1名、少年指導員3名、心理担当職員1名、事務員2名、特別指導員1名、母子自立支援員1名、サテライト補助員2名、嘱託医1名 計16名

※平成29年4月1日現在

◎平成28年度母子生活支援施設事業報告

施設長 鷲野林平



平成28年度の重点努力目標についての取組結果を報告します。

平成28年度「重点努力目標」の取組結果

○全体テーマ

平成28年3月に法人としての中長期計画を策定し、その中に、ひとり親支援としての相談、学習支援等を明記し、母子生活支援施設の機能を活かし、地域で支え合える子育て支援の拠点となるような取り組みを目指すこととしました。

中長期計画の策定はできましたが、職員全体で共通認識する機会を設けることができませんでした。

利用者及び地域に対しての最善の支援の展開のための、地域理解の場が少な

く、今後は、地域の実情について、福祉事務所を始めとする関係機関からの収集、また、地域で開催される「井戸端会議」等(参加することで、「地域の声」を把握することが必要と思われる。

○利用者支援

福祉事務所から入所依頼があった場合に、入所に向けて、福祉事務所始め関係機関からの情報収集を積極的にし、母と子ととつて、施設入所が最善であるかどうか検討することができました。

入所後においても、福祉事務所始め関係機関との連携を密にし、離婚等の法的な問題解決、就労、子育てについて個別の支援を展開することができました。

職員として個別支援を心掛けていましたが、時には利用者(主に母)からの利用者とのかわりの違いに苦情が出ることもあり、利用者間の関係調整が難しく感じるケースもあったので、個別の支援の手段方法について検討が必要であると思われれます。

退所を迎える利用者においても、退所後の生活のイメージをしてもらうために実際に退所者の方を招き、実体験の話や聞くことで、退所に向けてのイメージ、地域での生活を描いてもらうことができるような取り組みもしました。

○職員育成・連携

職員研修については、研修計画に基づき、県外、県内の研修に積極的に参加することができました。研修内容については、施設内研修にて報告をし、伝達研修をすることができました。しかし、第三者評価において指摘されましたが、研修で習得したことをどのように現場

で活かすことができたかを評価する手段を検討する必要があります。

職員の引継ぎ時には、母と子の生活の様子について、少しの変化についても報告をすることとし、情報共有をすることができました。

元日本福祉大学教授の江口先生(臨床心理士)を定期的にお招きし、実施したケース検討会の場合は、利用者理解を深めることができ、今後の支援の方向性を明らかにするためのよい機会となりました。

○一時保護及び地域支援

緊急一時保護事業については、愛知県女性相談センターと委託契約を結び事業実施しました。DV被害の母子世帯の受入れをすることができ、安全を図ることができました。ケースによっては、一時保護期間が長期にわたることもあり、施設内ではありますが、安全性を確保しながら、一時保護室から外(ホール、学習室等)に出る機会を設け、母と子の精神的な不安(主に閉鎖感)を解消することができるよう対応をすることができました。

子育て短期支援事業については、半田市、知多市、常滑市、さらには年度途中に東浦町とも委託契約を結び事業実施しました。母子世帯、児童等の受入れをすることができ、地域における施設役割を果たすことができました。

平成22年に策定された「半田市地域福祉計画」の見直しの年度であり、「地域福祉計画評価委員会」に職員が参画し、地域福祉計画の進捗状況の評価、今後の方向性について審議し、意見を述べることができ、「子育て支援」の

充実を盛り込むことができました。

昨年同様、平成27年4月から施行された、「生活困窮者自立支援法」の事業実施の一環として、半田市が組織する「半田市生活困窮者自立支援ネットワーク協議会」に職員が参画し、当面、地域で生活する母と子が安心して過ごすことができる環境、特に、学習環境の整備を検討し、「負の連鎖」を断ち切るための事業実施について検討することができました。

半田市社会福祉協議会から、高齢者サロンの開催場所として、施設が利用できないか相談があり、地域のボランティア(ならわお助け隊)の運営で地域支援事業の一環として、「同胞園成岩サロン」の場の提供をすることができました。

○入所状況行事等

入所状況は、月平均約19世帯、児童数は月平均約33人(乳幼児16人、学童等17人)でした。入所世帯は12世帯で、入所理由は夫等からの暴力です。退所世帯は13世帯(サテライト施設からの退所含む)で、退所の理由とその件数は、様々な問題が解決できたケースが6世帯、問題の解決には至っていないが、施設の生活に慣れずに退所したケースが3世帯、夫等に居場所がわかつてしまい、他の母子生活支援施設への移管を余儀なくされたケース等が4世帯でした。

DVからの危険の回避のための緊急一時保護の受入れは6世帯で延べ日数は95日で、保護期間は昨年よりも長くなりました。また、近隣市(半田市・東浦町)からの子育て短期支援事業として3世帯の受入れをし、住宅環境の整備、母親の親族等への見舞い等で、子育てが

できない場合の支援をしました。
母親の就職率は、昨年度よりも減少しました。しかし、母親の就労支援や育児支援の一環としての補充保育等は、延べ350件と昨年同様の件数でした。内訳は補充保育が一番多く174件、次に、祝日保育が79件、未措置保育62件の順となっています。

行事については、例年、日帰りバス旅行として、テーマパーク等に出かけていきましたが、利用者アンケートから近いところでゆつくりしたいと要望があり、市内でバーベキューを開催しました。子どもたちも食べるだけでなく、自分で肉を焼くことができ、楽しい時を過ごすことができました。また、母親行事として、カルチャー教室を開始しました。内容は、書道教室、健康体操でした。書道教室時には、久しぶりに筆を持ち、字を書く難しさを感じながら真剣に取り組んでいました。健康体操時には、身体を動かして、汗をかくことができ、運動不足も感じながらも気持ちよさそうな感じでした。児童行事として、例年どおり、キャンプを実施し、晴天にも恵まれ、自然を満喫することができました。

将来、施設職員、保育士を目指す学生等の実習の受入は、合計28人で、施設として人材育成の一環であり、地域貢献の一つでもあると考え、積極的に取り組むことができました。

また、行事、イベント等にJAあいち知多の職員のみなさんをはじめ、日本福祉大学、名古屋短期大学等の学生のみなさんのご参加ご協力をいただき、地域のみなさんとの交流を深めることができました。また、国際交流ボランティアの

みなさんの協力を得て開催している「日本語教室」も定着してきており、外国籍のお母さんが日本語のみならず、日本の文化・風習についても教えていただいております。

最後に、地域のみなさんから衣類、書籍、食料品、お菓子等、たくさんのお寄付をいただいております。また、招待行事もあり、施設で生活する母と子はとても喜んでいました。本当にありがとうございました。今後もご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

◎「寄付の紹介」

「お腹いっぱいになりました」

登喜宮様から夕食提供

市内の仕出し料理店の有有限会社登喜宮様から夕食の提供をいただきました。代表取締役である佐藤元保氏が「最近、子どもたちの「食」について報道関係によく取り上げられている。何か協力できることはないか」と半田市地域福祉課に相談したところ、当施設を紹介していただき、施設利用の母と子どもたちに夕食を提供していただくことになりました。夕食のメニュー及び量については各世帯の人数、子どもの年齢等を考慮して対応してもらいました。メニューは巻きずし、握りずしにエビフライ、鶏の唐揚



げ、卵焼き等、子どもたちの大好物のものばかりでした。母と子どもたちからの感想は「おいしかった」「お腹いっぱいになった」「パーティーみたいだった」と喜びの声でいっぱいでした。母と子の感想文をまとめ、佐藤社長にお届けした時に、すべての感想をゆつくりしっかり読んでいただき、「みんなが喜んでくれてよかったです。継続できれば」と言っていたいただき、感謝感謝です。母にとっても子どもたちにとっても、気持ちもお腹も「幸せいっぱい」な時を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

「平成28年度「CBCチャリティー募金」にもびたっ。」の配分事業」
中部日本放送株式会社様が社会福祉法人愛知県共同募金会を通じて、児童福祉施設の支援に活用するためにご寄託いただくことになり、その事業に申請をさせていただいたところ、希望の物品等を購入するための配分金をいただくことができました。購入させていただいた物品は、児童の安全確保のための児童自転車用ヘルメット、健康増進及び学習支援等のためプロジェクト、ワイドスクリーン、カラーコンピュータです。今後、有効に活用させていただきます。ありがとうございます。

「和太鼓の演奏」
少年指導員 市野淳巳



半田同胞園では外部から講師を招いて原則、隔週木曜日の月2回、児童と職員が和太鼓の練習を行っています。その練習の発表の場は、保育所の夏祭りや半田同胞園展開催時のオープニングの2回です。
演奏する曲が決まると児童の中には出来るかどうか不安になる子どもも多く、「分らないからやりたくない」練習が嫌だ」と言う子どももいます。しかし練習を重ねていくうちに動きがスムーズになり、和太鼓の音も大きくなります。

本番が近づくとつれて発表に近い形式での練習を行い入場から退場までの一連の動きを練習します。児童たちも一生懸命頑張るあまり顔が強張ってしまい表情が硬く怖い顔の子もよくいます。先生からは、お客さんにどのように見られているのかを考えて練習をすること、和太鼓を叩く時は和太鼓の方を見るのではなく、お客さんの方をしっかりと向いて笑顔で演奏するように注意を受ける時もあります。

本番当日になると児童は緊張からか「上手く叩けるかな」「ドキドキする」と言う子が多いです。直前に泣き出す子もいたりします。しかし、本番になると先ほどの姿とは違って変わってキリッとした表情に変わり、緊張していた子が最初から最後までフルパワーの演奏を披露してくれます。

演奏が終わると緊張から解放され、「間違えずに演奏できた」、「できて良



「年忘れ会」は、満面の笑みで、達成感を表現する児童がほとんどです。来場者のみなさんから「また演奏が聴きたい、見たい」、「イキイキ」として良かった」と感想をいただくことが多いです。また、地域の高齢者施設の方からは「今度うちの施設に演奏に来てくれませんか」と演奏の依頼をいただき、前向きに検討させていただきます。

今後も和太鼓の演奏を通して地域の方とのふれあいの機会を増やし、児童にもやってみようと思えるものを作りたいと思います。

「年忘れ会」ホリデーギフト

母子支援員 中井佳代

年末の恒例行事の「年忘れ会」について紹介します。例年は利用者の踊り等の発表等を行い食事をしながら、一年を振り返る内容でしたが、今年度は愛知県共同募金会様から紹介があり、三菱UFJモルガンスタンレーPB証券株式会社の皆様が、子どもたちにクリスマスプレゼントを届けるチャリティー企画を年忘れ会の中で行ってくれることになりました。この企画は「ホリデーギフト」ということで、三菱UFJモルガンスタンレーPB証券株式会社の社内から集まった社員の皆様が、プロジェクトチームを結成して、施設の子どもたちにクリスマスプレゼントを届けるチャリティー企画だそうです。

当日は6名の社員の方が来訪してくださり、大人気の「ゆるキャラ」である、半田の「だし丸くん」や名古屋の「エビザベス」など6体のキャラクターが登場して写真撮影大会が始まりました。ゲームの時間になると2チームに分かれて「うらうらゲーム」というゲームを行い、小学生児童の白熱した戦いで盛り上がりました。そして、今回のメインであるプレゼント渡しの時間になりました。プレゼントを渡す「サンタさん」に扮した社員さんから一人ひとりにプレゼントを渡してもらいました。このプレゼントは、子どもたちには内緒でその子の好きなキャラクターやおもちゃを母から事前に教えてもらい、幼児から高校生の子どもたち42名分、その子だけのプレゼントを、「サンタさん(社員さん)」がすべて準備してくれました。お気に入りのキャラクターや欲しかったおもちゃをサンタさんからもらった子どもたちは、「どうして欲しかったおもちゃをサンタさんは知ってるの」と驚きと喜びでいっぱいでした。その姿を見守る母たちもとても幸せな表情でみつめていました。このような企画を考えてもらい、あらためてたくさんの方に見守られ、支えられ応援してもらっていると感じました。思い出のプレゼントもたくさんもらって、素敵なお一日になりました。

なお、「年忘れ会」は毎年開催され、JAあい知多の職員の皆様、日本福祉



大学の学生の皆様の出席、協力もいただいています。今年も本当に楽しい「年忘れ会」となりました。ありがとうございました。

法人(社会福祉法人 半田同胞園)

※平成29年6月21日現在

役員紹介(理事六名・監事二名)

【顧問】 水野 八洲男

【理事】 (理事長) 北村正信

(平成29年6月21日より就任)

【理事】 水野源次・安戸洋子・手島寿宏・犬塚 清・青木 誠

青木 誠

(任期29年6月20日より2年間)

【監事】 近藤敏通・二宮公平

(任期29年6月20日より2年間)

29年度より新たに評議員を選任しました。(評議員七名)

酒井なつ江・杉浦勝子・鈴木一郎・永田創一・水野 節・高木勝弘・向井克子

(任期29年4月1日より約4年間)

評議員選任・解任委員紹介(三名)

杉江道城・二宮公平・鷲野林平

(任期29年4月1日より約4年間)

第三者委員紹介(二名)

酒井宏造・澤田圭造

(任期29年6月20日より2年間)

理事会の状況(年五回)

第1回 平成28年5月10日

一、27年度法人事業報告書案 二、27年度資金収支決算書案 三、27年度事業活動収支決算書案 四、27年度貸借対照表案及び財産目録案 五、役員(理事・監事)の選任案 六、第三者委員の選任案 七、土地の購入事業案

【臨時】 平成28年8月25日

一、土地購入及び地域における公益的な取組案

【第2回】 平成28年10月28日

一、社会福祉法等の一部を改正する法律に伴う定款の一部改正案 二、法人評議員選任・解任委員会運営細則案 三、土地購入計画予算案 四、28年度資金収支第二次補正予算案

【第3回】 平成29年2月17日

一、法人第一期評議員の選任候補者の推薦 二、28年度資金収支第三次補正予算案 三、法人育児・介護休業規程改正案 四、法人使用土地の半田市市有財産有償貸付契約書案

【第4回】 平成29年3月22日

一、28年度資金収支第四次補正予算案 二、法人役員等報酬規程改正案 三、法人給与規程改正案 四、法人定款施行細則改正案 五、法人29年度事業計画案 六、29年度資金収支予算案 七、法人役員規程改正案

職員の採用・退職状況

【退職】 (平成28年度末) 保育士 保育士 中山由紀 延長保育士 ※榊原浩子

保育士 ※榊原浩子

採用 (平成29年4月1日)

保育所(正式採用) 保育士 市田透 保育補助 ※高須 恵 調理員等 ※高木 絢菜

母子生活支援施設 少年指導員 ※田浦 奈々

異動 (平成29年4月1日)

保育所 保育士 竹内佳代子
本部・母子生活支援施設 事務員 木下和博

寄附

坂文種報徳会様《金40万円》、株式会社ファミリ様《金57.68万円》

母子生活支援施設

義援金：報道機関7社様

寄付金：畔柳貴一様《金3万円》、竹内廣治様《金1万円》

食料品等：社会福祉法人中部善意銀行様《全世帯(食料品セット)》、杉浦秀則様《全世帯(みかん一箱)》、株式会社さんわコーポレーション様《鶏肉》、カーブス半田青山店・住吉店様

《食料品多数》、おいしい村 末松園子様《野菜多数》、高橋直紹様《お菓子多数》、ハッピーサンタ実行委員会 永田弘継様《お菓子セット》、黄瀬千秋様《スイカ》、眞金正幸様《餅》、有有限会社登喜宮様《全世帯へ食事(夕食)》

日用品雑貨等：江口京子様《雑貨多数》、小野真頭様《おもちゃ、書籍》、塩谷増夫様《ランドセル、文房具多数》、伊藤容子様《学習机、書籍等》、森村雅一様《食器等多数》、



有限会社カジミツ松宮様《雑貨》、半田幼稚園育友会様《書籍、日用品多数》、黄瀬千秋様《雑貨》、日本ゼネラルフード株式会社様《ランドセル》、社会福祉法人中部善意銀行様《学習用品セット、バッグ》、眞金正幸様《洗剤等》、ハッピーサンタ実行委員会 永田弘継様《おもちゃ》、三菱UFJモルガンスタンレーPB証券株式会社様《おもちゃ多数》

衣料品等：有限会社カジミツ松宮様、半田幼稚園育友会様、福里由美子様、桶澤好子様、小野真頭様、廣瀬コリーナ様、榎原梅代様、井田香織様、黄瀬千秋様、有限会社日新工業所様、ドリームハウス 天野一晃様、たんぽぽ 田中和枝様

その他：有限会社カジミツ松宮様《カブトムシ幼虫》、江口京子様《水槽、幼児用イス》、浜崎 天様《児童用自転車》、伊藤容子様《学習机》、沢田雅勝様《ボウリング行事》

保育所 大空会様《絵本多数、ままごとキット》、マルチラック2つ、砂場の砂》、尾張製煎合資会社 榎原総一郎様《麦茶1ケース相当》

意見・要望の状況(28年度)

母子生活支援施設 件数 11件

保育所 件数 2件

※苦情の詳細については、法人のホームページにて掲載してあります。

平成29年4月1日

社会福祉法人半田同胞園

平成 28 年度の法人の経営状況(総括表)

1. 法人単位の資金収支の状況 第1号の1様式

(自)平成28年4月1日(至)平成29年3月31日

項目	金額(千円)
(1) 事業活動資金収支差額	23,263
①事業活動収入	357,432
・児童福祉事業収入	91,950
・保育事業収入	259,764
・太陽光発電用土地賃借事業収入	700
・借入金利息補助金収入	21
・経常経費寄付金収入	1,279
・受取利息配当金収入	28
・その他の収入	3,690
②事業活動支出	334,169
・人件費支出	288,146
・事業費支出	32,783
・事務費支出	13,164
・支払利息支出	76
(2) 施設整備等資金収支差額	▲3,839
①施設整備等収入	1,536
・施設整備等補助金収入	1,306
・施設整備等寄付金収入	230
②施設整備等支出	5,375
・設備資金借入金元金償還支出	4,656
・固定資産取得支出	719
(3) その他の活動資金収支差額	▲14,082
①その他の活動収入	2,995
・長期運営資金借入金収入	2,305
・積立資産取崩収入	690
②その他の活動支出	17,077
・積立資産支出	17,077
当期末資金収支差額	5,342
前期末支払資金残高	41,116
当期末支払資金残高	46,458

2. 法人単位の事業活動の状況 第2号の1様式

(自)平成28年4月1日(至)平成29年3月31日

項目	金額(千円)
(1) サービス活動増減差額	▲10,119
①サービス活動収益	354,140
・児童福祉事業収益	91,950
・保育事業収益	259,764
・太陽光発電用土地賃借事業収益	700
・経常経費寄付金収益	1,279
・その他の収益	447
②サービス活動費用	364,259
・人件費	306,943
・事業費	32,783
・事務費	13,090
・減価償却費	21,655
・国庫補助金等特別積立金取崩額	▲10,212
(2) サービス活動外増減差額	3,142
①サービス活動外収益	3,218
・借入金利息補助金収益	21
・受取利息配当金収益	28
・その他のサービス活動外収益	3,169
②サービス活動外費用	76
・支払利息	76
経常増減差額	▲6,977
(3) 特別増減差額	20,499
①特別収益	21,897
・施設整備等補助金収益	1,306
・施設整備等寄付金収益	230
・その他の特別収益	20,361
②特別費用	1,398
・固定資産売却損・処分損	157
・国庫補助金等特別積立金取崩額(除去)	▲157
・国庫補助金等特別積立金積立額	1,398
当期活動増減差額	13,522
前期繰越活動増減差額	115,098
当期末繰越活動増減差額	128,620
その他の積立金取崩額	0
その他の積立金積立額	13,923
次期繰越活動増減差額	114,697

3. 法人単位の資産等の状況 第3号の1様式

平成29年3月31日現在

項目	金額(千円)
(1) 資産の部	765,602
①流動資産	69,038
・現金預金	56,878
・未収金	4,267
・未収補助金	7,694
・前払金	199
②固定資産	696,564
・基本財産 建物	536,828
・その他の固定資産	159,736
・建物	8,952
・構築物	1,587
・機械及び装置	86
・車両運搬具	1,487
・器具及び備品	7,663
・権利	12
・ソフトウェア	741
・退職給付引当資産	21,435
・施設繰越積立資産	65,301
・施設・設備整備積立資産	50,411
・その他の積立資産	1,311
・差入保証金	750
(2) 負債の部	130,551
①流動負債	43,567
・1年以内返済予定設備資金借入金	4,656
・未払費用	20,886
・預り金	240
・職員預り金	1,453
・費与引当金	16,332
②固定負債	86,984
・設備資金借入金	63,244
・長期運用資金借入金	2,305
・退職給付引当金	21,435
(3) 純資産の部	635,051
・基本金	29,503
・国庫補助金等特別積立金	373,828
・その他の積立金	117,023
・次期繰越活動増減差額	114,697
(うち当期活動増減差額)	13,522
(2) (3) 負債及び純資産の部合計	765,602

※詳しくは、社会福祉法人半田同胞園ホームページを参照ください。 <http://dohoen.jp/>